

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第52号

2008年1月31日

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2/>

追手門学院大学への「豪日交流基金寄贈書」の寄贈と 同大学附属図書館「オーストラリア・ライブラリー」開設について

去る2007年10月11日(木)、「豪日交流基金寄贈書」が追手門学院大学に寄贈され、附属図書館3階に専用フロアとして「オーストラリア・ライブラリー [Australia Library]」(以下、ライブラリー)が開設されました。寄贈書15,000点(和書3,000点/洋書10,000点/視聴覚資料等2,000点)に、同大学オーストラリア研究所の蔵書5,000点を加え、計20,000点におよぶ国内最大のオーストラリア専門コレクションとなりました。同日には、マレー・マクレーン駐日オーストラリア大使による目録贈呈式が行われ、本学会の関根政美代表理事も立会いました。

この寄贈に伴い、オーストラリア政府からは、図書費として2007年度A\$10,000の補助金が交付されました。また豪日交流基金が整備してきたオーストラリア関係日本語論文データベースシステムについても、費用総額A\$73,000のうちA\$58,000をオーストラリア政府が負担することで、追手門学院大学に移設されることが決まりました。会員各位も、著書・論文を、複写権・公衆送信権をお認めのうえライブラリー宛にご寄贈ください。

ライブラリーの一般公開は2008年2月14日の予定ですが、論文データベースシステムの導入は4月以降になると予測されます。学外の方によるライブラリーの利用は、同大学附属図書館利用規則に準じます。開館時間・貸し出し手続き・アクセス等の詳細は、下記のホームページをご参照いただくか、直接ライブラリーにお問い合わせください。(南出眞助)

【追手門学院大学附属図書館 オーストラリア・ライブラリー】

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 Tel: 072-641-7746

E-mail: australia-lib@jimu.otemon.ac.jp (同上) URL: <http://www.oulib.otemon.ac.jp/>

追手門学院大学附属図書館「オーストラリア・ライブラリー」開設に寄せて

オーストラリア学会代表理事 関根政美

オーストラリア・ライブラリーは豪日交流基金による寄贈図書を中心としてこの度設立されることになりました。追手門学院大学には、1968年に設立され2008年に40周年を迎え、関西のみならず日本のオーストラリア研究において指導的な立場を築いているオーストラリア研究所があり、オーストラリア・ライブラリーを設置するにはふさわしい場所であると思います。そして、ライブラリー設置には大きなコストが付き物ですが、追手門学院大学のご英断を大いに賞賛いたしたいと思います。本当に有難うございます。

ところで、オーストラリア研究が日本で発展するためには、オーストラリアに関する専門図書や雑誌が揃っている図書館が必要不可欠です。現在はインターネットの時代で、オーストラリアで発行されている雑誌の多くがオンラインで読める時代となってはいますが、かつて東京の地下鉄表参道駅前に豪日交流基金事務所と図書館があった時代は、なんとなくオーストラリア研究を志すものが集まってきて情報交換をしたり、友人同士になったりして互いを励ますような場所となっていました。今、オーストラリア研究者として活躍している研究者の多くが、表参道駅前事務所と駅前図書館を懐かしんでいるはずです。

追手門学院大学附属図書館のオーストラリア・ライブラリーは、書架だけではなくゆったりとした閲覧スペースが準備されており、研究志望の学生や研究者の交流もできるようになっております。もちろん図書館の中ですから大声で話すことは出来ませんが、閲覧スペースを外に出るとそこで話ができるようになっています。追手門学院大学附属図書館オーストラリア・ライブラリーがかつての表参道駅前図書館のようなスペースとして今後発展し、オーストラリア研究の推進役を果たしてくれることを祈ります。

1. 第7期第1回理事会報告(2007年12月10日、慶應義塾大学三田キャンパス午後2時から開催)

(1) 全国研究大会準備状況

オーストラリア・ライブラリーが開設された追手門学院大学にてライブラリーのお披露目を兼ねて実施する。大会日程が「日豪合同セミナー」と重複する問題については、同セミナーが5/31、6/1開催に変更されたことで解消した。(1頁および次頁2.参照)

(2) 豪日交流基金助成大学院公開講義の開催

オーストラリア研究を志す大学院生を増やすために大学院プログラムを拡充することを目的として、豪日交流基金より助成金を受けることが急遽決定した。しかるべき大学院にオーストラリア研究プログラムを設置し、講師を派遣、単位認定することも当初考えられたが、時間の制約上無理があったため、オーストラリア学会主催の「大学院公開講義」を慶應義塾大学において開催することとした。昨秋2007年10月に開催された「アジア太平洋の安全保障—日豪の役割」セミナーを、この公開講義の第1回と位置づけ、12月15日にオーストラリア国立大学ロバート・エイソン教授を招き“Bilaterals, Trilaterals and Quadrilaterals: Japan-Australia Security Cooperation and Great Power Relations in Asia”と題して第2回講義を、2008年1月26日にシンポジウム「2007年オーストラリア連邦総選挙結果—ハワードW敗北諸要因とオーストラリアの市民意識」を第3回講義として、それぞれ実施する予定〔実施済み。当日の参加者は、第2回35名、第3回40名〕。第2回および第3回講義の52号会報による案内は間に合わないが、第4回および第5回の準備を早急に進め、可能なかぎり事前に会員に通知する。(5頁参照) また、今後、関西、関東両方面で同様の大学院公開講義を実施予定。(次号以降参照)

(3) 地域研究会の報告。(4頁5.参照)

(4) 会計状況の中間報告。

(5) 理事会・運営委員会・理事の業務分担(下記役員一覧参照)

(6) 学会誌『オーストラリア研究』第21号(2008年3月発行)編集進捗状況。会員の研究文献目録への掲載情報が少ないので積極的にお知らせ願いたい。

(7) 学会報発行状況(第49号、第50号、第51号)、および発行予定案(第52号、第53号、第54号)

(8) 新規入会7名を承認する。

出席者＝関根政美(代表理事)、有満保江、岡崎一浩、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、小林信一、橋本雄太郎、藤川隆男、松繁寿和、南出眞助、飯笹佐代子、永野隆行、村上雄一、安田純子、田澤佳昭(以上理事)

2007年12月□2010年12月役員一覧

[代表理事] 関根政美

[副代表理事(企画)] 鎌田真弓

[全国研究大会担当理事] 藤川隆男、南出眞助

[プロジェクト担当理事] 関根政美、有満保江
加賀爪 優、永野隆行

[関東例会担当理事] 関根政美、塩原良和
永野隆行

[関西例会担当理事] 南出眞助、藤川隆男
松繁寿和

[副代表理事(総務)] 橋本雄太郎

[庶務担当理事] 村上雄一、塩原良和

[会計担当理事] 田澤佳昭

[広報担当理事] 橋本雄太郎

[副代表理事(編集)] 小林信一

[学会誌担当理事] 加藤めぐみ、有満保江
安藤 充、飯笹佐代子
川口 章、安田純子

[会報担当理事] 田澤佳昭、塩原良和

[HP担当理事] 安藤 充、鈴木雄雅

[監事] 岡崎一浩、有満保江

[運営委員会] 代表理事・副代表理事・
会計担当理事にて構成

..... **学会費未納分の納入について**

本年度までの会費を未納の会員の方々には、未納分の振込用紙を同封いたしましたので、至急お振込みください。年会費は5,000円(賛助会員は10,000円)です。

お問い合わせ：会計担当理事(田澤 佳昭 ytazawa@dohto.ac.jp)

全国大会研究発表の追加募集

個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、2月29日までに、学会事務局あて書面（メール可）にてお申し込みください（200字程度の要旨を添付してください）。

2. オーストラリア学会 2008 年度総会・全国研究大会（大阪）

開催日：平成20年6月7日（土）、8日（日）

場 所：7日（土） 追手門学院大学

（大阪府茨木市西安威 2-1-15 URL: <http://www.otemon.ac.jp/cas/>）

8日（日） 追手門学院 大阪城スクエア（大阪府中央区大手前 1-3-20）

連絡先：追手門学院大学オーストラリア研究所

TEL：072-641-9667/FAX：072-643-9476 E-mail：cas@jimmu.otemon.ac.jp

担当：南出眞助教授

□6月7日（土） 第1日目（追手門学院大学）

基調講演 “More than Sorry: Indigenous Policy under Howard and Rudd（仮題）”

David Carter（クイーンズランド大学

／東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）

オーストラリア・ライブラリー見学会

シンポジウム I「オーストラリアにおける白人性の相克

——アボリジナル・スポーツと移民制限」

司会 藤川隆男（大阪大学）

レセプション

□6月8日（日） 第2日目（追手門学院 大阪城スクエア）

一般個別研究報告（午前）

総 会（午後）

シンポジウム II「北東アジアの安全保障と日豪安保協力」 司会 片原栄一（防衛研究所）

3. 『オーストラリア研究』第21号投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』第21号（2008年3月発行予定）に掲載する論文を募集します。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号に掲載する論文の締め切りは2008年8月末日。詳細は最近号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2008年10月30日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだFD）をご利用ください。記入例は第15号（2003.3）を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

投稿・連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学言語文化教育研究センター 有満保江気付

TEL：0774-65-7070 Fax：0774-65-7069 E-mail: yarimitu@mail.doshisha.ac.jp

2005年5月より宛先が変わりましたので、ご注意ください

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

4. 第1回オーストラリア学会地域研究会関東例会／慶應義塾大学 21世紀 COE 共催「アジア太平洋の安全保障—日豪の役割」セミナーが2007年10月7日に慶應義塾大学三田キャンパスで開催され、55名もの聴衆の参加があり盛況でした。多大なご協力を頂きました豪日交流基金、在日オーストラリア大使館、慶應義塾大学 21世紀 COE-CCC、ほか、関係各位に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

5. 第5回地域研究会（関西）活動報告

報告：南出眞助

第5回研究会が2007年11月10日(土)、大阪府茨木市の追手門学院大学附属図書館に新設された「オーストラリア・ライブラリー」で行われました。発表はつぎのとおり。①西谷公孝（神戸大学大学院 博士課程）「企業のISO14001取得に対する外国市場の影響－日豪に焦点をあてて」（司会：南出眞助）、②平野知見（常磐会学園大学）「オーストラリアの幼児教育にみるチーム支援」（司会：南出眞助）。参加者12名。前者は、ISO取得状況に関する国別のマクロデータを扱い、ISO取得が外国顧客に対するプラス材料になりえたかどうかを統計学的に検証した論考。後者は、シドニー近郊での長年にわたる保育士経験から、保護者を巻き込んだプログラムである「ペアレント・インボルブメント（Parent Involvement）」活動について考察した論考でした。いずれも、これまでの発表にはない新たな関心を引き起こすもので、前者については実業界からの質問が、後者については多文化共生論の立場からの質問が続きました。最後にサー・ニール・カリー奨学金募集のアナウンスを行いました。

【第6回 地域研究会（関西）のお知らせ】

共催：追手門学院大学オーストラリア研究所

日 時： 2008年3月8日(土) 14:00～17:00 *非会員の方も参加できます。

場 所： 追手門学院大学 5号館3階5301教室（茨木市西安威2-1-15）

交 通： JR茨木駅西口南へ7分 マイカル茨木横、阪急茨木市駅西口前から追手門学院スクールバス（無料）13:10発または14:00発。

ほかに阪急バス（阪急茨木市駅13:35、JR茨木駅13:45）もあります。

連絡先： 追手門学院大学オーストラリア研究所

TEL：072-641-9667 / FAX：072-643-9476 E-mail：cas@jimu.otemon.ac.jp

会場はホームページでご確認ください。http://www.otemon.ac.jp/cas/

発 表： 14:00 - 14:50 *通訳がつきます。

“Some Foreign Policy Implications of the 2007 Australian Federal Election”
「2007年オーストラリア総選挙結果と外交政策」

Dennis Rumley（エディス・コーワン大学）

15:10 - 17:00

”The Australia-Japan Security Relationship: How Much Further Can It Go?”
「日豪安全保障協力はどこに向かうのか」

Paul Dibb（オーストラリア国立大学名誉教授）

講師紹介：

Professor Dennis Rumley エディス・コーワン大学インド洋研究グループ主任（2007年～）。

専門は政治地理学。1976～2007年 ウェスタン・オーストラリア大学勤務。この間、追手門学院大学オーストラリア研究所等との共同研究多数。1991年 東京大学教授、2003年 京都大学教授として勤務。

Emeritus Professor Paul Dibb 外交問題評議会（外務貿易省）および国防・安全保障諮問会議（国防省）メンバー。1974～1991年 オーストラリア国防省勤務。1986～88年 国防省合同情報機関（現・防衛情報機関）所長、1988～91年 国防副次官を歴任。1991～2003年 オーストラリア国立大学太平洋アジア研究所 戦略研究センター長。1988年 オーストラリア勲章（OAM）。また ARF（ASEAN 地域フォーラム）「専門家・賢人会合（EEP）」に2006年（韓国）と2007年（フィリピン）外務貿易省の要請を受け出席。2006年12月、日豪関係の発展に対するこれまでの貢献を高く評価され、日本国外務大臣から表彰状を贈られている。

豪日交流基金からのお知らせ

◇ 豪日交流基金サー・ニール・カリー助成プログラム 募集開始

2008年度「大学院生への奨学金」「オーストラリア講座・講義の新設／充実への助成金」「オーストラリア関連書籍への助成金」の3つの助成プログラムの募集を行っています。

締切りは3月7日(金)。詳細は<http://www.ajf.australia.or.jp/awards/sirneil/>

【大学院特別公開講義のお知らせ】

豪日交流基金助成 共催：オーストラリア学会／21世紀COE-CCC戦後市民意識研究サブユニット

オーストラリア学会では、豪日交流基金の助成を得て、2007年度秋学期に慶應義塾大学で大学院特別公開講義を開催しています。本講義は、慶應義塾大学法学研究科・社会学研究科の関根政美先生担当の授業の公開関連事業ですので、オーストラリア学会員、慶應義塾大学以外の大学院生、学生、その他興味のある方はどなたでも参加できます。指導下の大学院生、学生など、より多くの方々にご宣伝ください。

場 所： 慶應義塾大学三田キャンパス（港区三田 2-15-45）
交 通： JR 山手線／京浜東北線 田町駅より徒歩 8 分。都営地下鉄浅草線／三田線 三田駅より徒歩 7 分。都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅より徒歩 8 分。
担 当： 関根政美（慶應義塾大学）／鎌田真弓（名古屋商科大学）／永野隆行（独協大学）
連絡先： 関根政美（慶應義塾大学） E-mail : sekine@law.keio.ac.jp

◇ 第 4 回

日 時： 2008 年 2 月 9 日(日) 13:00～16:15 *通訳がつきます。
会 場： 第 3 校舎（大学院棟）3 階 325B 教室
講 義： 13:00 - 14:30 司 会 飯笹佐代子（総合研究開発機構）
“New Australias: The Meaning of Australia's National Days”
David Carter（クイーンズランド大学）
／東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授

14:45 - 16:15

講義に関する質疑応答／懇談

要 旨： オーストラリア・デイ（1 月 26 日）直後に開催される本講義では、19 世紀以降オーストラリア・デイの意味がどのように変化してきたのかを明らかにし、オーストラリアがネーションとしてどのように定義され、国内的・国際的にどのように認知されてきたのかを検証する。政権交代によって新たな再定義が行われるのだろうか考えたい。

◇ 第 5 回

日 時： 2008 年 3 月 9 日(日) 14:30～17:00 *通訳がつきます。
会 場： 南館（法務大学院校舎）模擬法廷（遠隔授業）教室
講 義： 14:30 - 17:00 司 会 佐島直子（専修大学）
“The Australia-Japan Security Relationship: How Much Further Can It Go?”
Paul Dibb（オーストラリア国立大学名誉教授）

17:30 - 19:00

懇親会（会費：8,000 円）

*懇親会会場は当日お知らせします。

要 旨： 2007 年 3 月 13 日に署名された「安全保障協力に関する日豪共同宣言」をテーマの 1 つとしてきた連続講義の最終回は、「ディブ報告書」の著者でもあるオーストラリア国立大学ポール・ディブ名誉教授を招いて、日豪安全保障協力の今後の可能性を探ります。

【地域研究会（関東）報告者募集】

研究報告希望の大学院生があれば 2008 年 3 月 31 日(月)に研究会を行います。2 月 29 日締切。
連絡・問い合わせ先：関根政美（慶應義塾大学） E-mail : sekine@law.keio.ac.jp

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付
オーストラリア学会事務局 TEL : 042-691-0011(代) / FAX : 042-691-5899
E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

2005 年 4 月より事務局が移転しましたので、ご注意ください

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会
※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。[紙面の制約上、速やかに掲載できない場合がありますことをご了承ください。]（宛先：塩原 yshio82@hotmail.com または田澤 ytazawa@dohto.ac.jp）なお書評欄に掲載を希望される場合は、学会事務局宛に献本願います。

[編集担当：田澤佳昭（道都大学）]

国立民族学博物館開設 30 周年記念を祝して

オーストラリア学会代表理事 関根政美

昨年のオーストラリア学会総会・全国研究大会が開催されました国立民族学博物館が開設 30 周年を迎えられ、2007 年 11 月 14 日に記念式典が行なわれました。式典には本学会の会長と副会長がご招待いただきましたが、残念ながら本務校の公務により両名とも出席が適いませんでした。そこで、学会を代表して、代表理事より以下の手紙を贈り、お祝いを申し述べましたので、ここに掲載いたします。

(前段、略)

まずなによりも、国立民族学博物館の開設 30 周年を、日本オーストラリア学会会員の声を代表して、心よりお祝いいたします。国立民族学博物館と日本オーストラリア学会の関係はというと、オーストラリアの先住民族アボリジナルの研究、あるいはアジア・太平洋国家・多文化主義社会オーストラリアの研究を通して強い学問的な繋がりがあり、2 つの組織の関係は深いということが指摘できます。とくに、国立民族学博物館は、オーストラリアの先住民族アボリジナル研究において、常に、日本では先端的で先導的な研究を行い、日本オーストラリア学会にも有益な示唆を与え続けてこられました。

私事で恐縮ですが、私自身は、松山利夫先生のお誘いで、毎月 1 回東京を離れて緑豊かで静かに空気の流れる民族学博物館の建物の中で、睡魔と闘いながら必死になって研究会に参加したことをよく思い出します。そこにおいて、都市に住む先住民の生活適応研究や多文化主義国家オーストラリアにおける白人性の研究などに接して、大いに勉強した記憶があります。また、2005 年と 07 年には、国立民族学博物館の建物をお借りして、日本オーストラリア学会の全国大会を開催し、いずれも大入りであったことが記憶に新しいといつてよいでしょう。

ところで、国立民族学博物館というと、日本のオーストラリア研究者がすぐ思い起こすのは、同じ JR 茨木駅の向こう側には追手門学院大学があり、そこには、まもなく設立 40 周年を迎えるオーストラリア研究所があるということです。2007 年 10 月には、オーストラリア政府豪日交流基金 (AJF) より大量の本や資料が寄贈され、大学図書館にオーストラリア・ライブラリーが設置され、来年より利用に供されるということです。ですから、オーストラリア研究者にとっては、JR 茨木駅周辺はオーストラリア研究のメッカであるといつてよい、ということです。

日本のオーストラリア研究のメッカと思われる JR 茨木駅周辺にて、国立民族学博物館は同地において 30 年にわたり活発な活動を続け、研究業績を蓄積し世界的にも影響力のある研究者とその業績を輩出するとともに、蓄積した資料を博物館として展示し、多くの日本人を啓発してきました。研究・教育・啓発活動が結びついた理想的な研究・教育拠点だと思えます。初代館長以来、今日の式典を統括するという大事な役目を担われている松園館長までの歴代の館長の皆様と、多くの館員の皆様方の並々ならぬご努力があつて、今日があるのだと思えます。ただただ頭が下がる思いです。本当にご苦労様でした。

しかし、次の 30 年が待っていることも確かです。現在、研究・教育環境は決して良好なものとはいえませんし、今後も様々な困難が待ち受けていると思えます。日本オーストラリア学会は、様々な恩恵を被ってきた組織として、陰ながら今後の国立民族学博物館のご発展を祈るとともに、ご支援できることがあれば実行したいと思っております。

現代世界全体と国民国家や地域は多文化交差世界となつており、文化交流・文化衝突・異文化すれ違い問題がますます重要なキーワードとなつていくと思われます。そのなかでの民族学博物館の役割はますます重大なものになっていくでしょう。今後も館長・館員の皆様一丸となつてご活躍され、日本の文化の質的向上に大いに貢献されることを祈念しつつ、私の祝辞を閉じさせていただきます。有難うございました。

オーストラリア学会代表理事 関根政美

新刊書のご案内

◎ 『Language in Papua New Guinea』 岡村 徹 編著 ひつじ書房 2007 年 11 月刊行
(価格：本体 8,000 円 + 税 ISBN 978-4-89476-353-1)

◎ 『猫に紅茶を—生活に刻まれたオーストラリアの歴史』 藤川隆男 著 大阪大学出版会
2007 年 12 月刊行 (価格：本体 1,700 円 + 税 ISBN 978-4-87259-238-2)